

クラス番号	914	ゼミタイプ	エクスカージョン型
		担当教員名	伊藤 文人
テーマ	戦時下の歴史と福祉を学ぶ―若者と子どもに焦点を当てて		

ゼミナール概要

先の敗戦から 75 年以上が経ちます。戦争は今の私たちの生活実感からいえば「非日常的な世界」かも知れませんが、近代日本は明治以降 150 年有余の歴史のなかで、前半をほとんど戦争に費やしました。戦後は、一応戦争の反省にたって社会を再建していくことに努力しましたが、過去の歴史に背を向けたり、過去を正当化しようとする「歴史修正主義者」も台頭してきました。この考え方は、「過去に先祖が行った行為を子孫は受け継ぐ必要がない」というスタンス（態度）に集約されています。ところで、戦争とは一体何でしょうか？また「戦時下における福祉」とは何でしょうか？とりあえずここでは暫定的に、「戦争に行かないエリート階層によって企画され、喧伝され、戦争が必然であることを教え込まれた子どもたちや若者たちが徴兵され、殺し合いをさせられるものであり、福祉はそれを促進するための役割を果たした」と規定しておきましょう。日本では敗色が濃くなった昭和 18 年以降に、若者（学生）たちが徴兵されたし、小中学生は軍事工場に徴用され、朝から晩まで軍事物資（戦闘機など）を製造する作業に従事させられただけでなく、空襲によって多くの幼い命が失われたし、唯一「本土決戦」を経験した沖縄では、少年兵たちにも多くの犠牲者を出しました。障害を持った子どもたちは、軍から見捨てられる事態を学校の先生たちの機転で疎開させたというエピソードすらありました。

このゼミでは、①「過去を忘れると戦争は日常的世界になる、戦争を二度と起こさせてはならない」という問題意識を持った学生諸君と共に、②「戦争が起きてしまったかつての時代を生きた若者や子どもたち」に焦点を当てつつ、③当時の世界と日本社会の構造や仕組み（政治・経済・文化と教育・福祉）を学びながら、④戦争時代を生き抜いたかつての子どもたちである高齢者たちにもお話を聴かせていただく機会を作っていただき、⑤私たちが戦争や福祉に対する考え方を掘り下げそれを紡いで他者へ伝えていくゼミにしたいと考えています。担当教員は、「半田空襲と戦争を記録する会」という市民団体活動にも携わっている関係で、この会の皆さんと学生諸君を引き合わせながら、お互いが学んだことを伝え合うことで、過去の歴史を引き受けながら、将来の福祉社会を創っていくことを念頭に学びを深めたいと考えています。

（前期）「戦争・福祉・若者・子ども」をテーマにした文献資料や映画・映像などの読解や視聴を通じて、私たちが「戦時下の歴史と福祉の関係」についての輪郭を理解していきます。

（後期）前期の学習成果に基づきながら、「半田空襲と戦争を記録する会」の企画に参加することを通じて、当時を知るお年寄りから話を聴く（インタビュー）だけでなく、私たちが学んだ内容を発表する機会を作っていただきながら、世代を繋ぐ、世代を超えた学びの空間を創造していけたらと考えています。

担当教員からのメッセージ

「戦争の世界と福祉の世界は正反対である」と思いたいところですが、戦争と福祉は一体的な関係を持った時代があるというのが、歴史が私たちに教えていることです。戦争は人間の尊厳を最も侮辱的に毀損する行為ですが、人類から戦争がなくなったことはありません。戦争が「日常的なもの」か「非日常的なもの」であるかどうかは、歴史をどう捉えるのかという私たちの生きる態度と関係しているかも知れません。日本だけでなく、それぞれの国や社会で、かつての戦争はどのように伝えられているのか？福祉はどんな役割を果たしたのか？を学習することも私たちが社会福祉の専門職になっていく上でとても大切なことです。換言すれば、戦争当時の社会福祉専門職は一体どのようなことを行ったのか？ということです。過去の歴史を学習することは辛いことかもしれませんが、「楽しい幸せな福祉的世界」を創る上での必要条件です。そういう歴史的様相を学んでみたいという問題意識を持つ皆さんの積極的な参加をお待ちしています。